

道外学生の視点で 常呂の漁業を発信

水産加工会社にインターン

北見市常呂町の水産加工業「マスコスモ合同会社」は、就労体験を通して、学生が仕事の魅力に触れるインターンシップの受け入れを新たに始めた。8月18日から受け入

れた道外の2人は、漁師の仕事や水産加工について学びを深め、企業の交流サイト（SNS）運用も1カ月間取り組む。インターン生は釧路大（広島）4年の浜崎なず



水産現場で使う罟などについて説明を受ける大津さん（右から2人目）と浜崎さん（右端）

なさん（22）＝福岡出身＝と、大正大（東京）1年の大津乃々芭さん（19）＝千葉出身＝。2人は広報の仕事に関心があり、参加を決めたという。

8月21日には、同社の柏谷晃一代表と川口悟史さんからホッケやカレイの漁で使う底引き網の説明を受け、実際に網の重さを確かめた。2人は「船上活締めをする理由は」などと質問を投げかけていた。急速冷凍の加工技術などについても学び、9月からは同社インスタグラムで漁業や会社の取り組みを発信。浜崎さんは「英語も使い海外の人にも伝えていきたい」と意欲を見せる。

同社のインターンシップは、水産業を通じて北見市常呂町の関係人口を増やす狙いもある。柏谷代表は「町外や道外の人から見た視点を大切にしたい」と話している。

（佐藤菜々子）